2024年度　智学館中等教育学校自己評価表

目指す学校像	人間の尊厳を大切にし，世界で活躍できる人材を育てる		
昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　点　目　標	達成状況
新学習指導要領の実施に伴い、生徒一人ひとりの進路実現に向けたより良い選択が可能となった。引き続き新学習指導要領に適応した指導方法や入試対策に向けて研修・研鑽を積んでいきたい。 国語・数学・英語の授業は習熟度別のクラスに分割し、それぞれの生徒の学力に見合った最適な授業を展開している。習熟度別編成は、学期毎に、定期考査や模擬試験により再編成し、生徒一人ひとりの学力状況を意識した個別最適な指導を実施した。 さらに、これからの生徒達に必要な問題解決能力・論理的思考力を計ることができる「AiGrow」を導入し活用している。6年一貫教育の強みを生かし、将来について考える時間を前期課程生から意識させた。 生徒全員がChromebookを所持することで双方向授業の実践はもとより、天候不順による休校時や生徒が急遽自宅待機を余儀なくされた場合でもGoogle Meetにより双方向の遠隔授業を行った。全ての教員が自在にICT機器を使って効果的な学習活動ができるよう、さらに研鑽を積んでいる。 また，今年度より常磐大学の協力を得て、大学への留学生との交流を行った。さらに，イタリアからの留学生1名を受け入れるなど，国際交流を深めることができた。 閉校へ向けての諸問題を洗い出し準備を始めていく予定である。	教育研究	・個々の学力推移の分析を踏まえ、個別最適な学習指導による学力向上と希望進路の実現 ・オンライン授業を活用し、生徒一人ひとりの学びの保証の継続 ・新学習指導要領における、入試対策の研究と確立 ・探究学習・ICT教育の充実を図り、論理的思考力や国際的指標に基づいた読解力を育成 ・教職員一人ひとりが自分の仕事におけるスキルを高め、多くのことに挑戦する ・生徒のやる気や潜在能力を引き出させる、工夫や努力に尽力する ・教職員全員で協力し助け合い、分担して業務にあたる ・教員の校外研修への参加の促進	A
	生徒支援（人間性の向上等）	・生徒たちが充実した学校生活を送れるよう、各種行事等の工夫、検討、見直 ・生徒一人ひとりがやる気と自信を身につけ、成長を実感できるよう支援する ・各種ボランティア活動に積極的に参加するよう支援する ・挨拶がしっかりできるよう全教職員で取り組む ・公共の場でのマナーを守ることの大切さを生徒に理解させる	A
	地域連携・国際教育	・天体観測会の実施（募集範囲の拡張） ・ユネスコ協会との連携 ・海外留学生の受入	A
	広報	・生徒の活動をSNSなどで幅広く発信する	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
学年	3年次	基本的生活・学習習慣の確立	パーソナルレコードを活用し,時間の管理を行い,自己の内面を省みることで生活を充実させる。	B	A	自己実現に向けて主体的かつ自覚的に行動する意識を持たせる
			後期課程への進級に向けて 主体的な学習態度を養い,基礎学力の定着と知識の習得に努めさせ,発展的学力に繋げる。	B		積み重ねと到達するまでの過程の大切さを意識させる
		互いを尊重し行動する自主性の育成	互いを認め意見を尊重しながら,リーダーの素養と個々が主体的に考えて行動できる力を養う。	A		一方的な批判的視点ではなく,多方向からの視点で考えさせる
			学校行事や課外活動において,協調性や信頼関係を重んじる意識を持ち,課題解決に繋げる意識を持たせる。	A		共同から協働へ視点の変化を促す
		学びの中での探究心の育成	興味・関心のある分野や事柄について,主体的に追究し学びを深めさせ地球規模で物事を思考する意識を持たせる。	A		多岐にわたる情報やICTを有効に活用させる
			自己の主張を論理的にまとめプレゼンテーションする力と,他者とコミュニケーションをとり有意義な情報交換を行う積極的な態度を育成する。	B		ディベートなど,継続的に多様性を尊重する場を設ける
		将来の目標を見据えた取組み	進路学習を通じて勤労の大切さや社会の一員としての生き方を学ばせると共に,自己の進路や適性など,具体的な職業観を培う。	A		進路講演等を通して自らの将来について具体的に考えさせる
			国内研修旅行において研修先の地域の生活や自然を理解し,計画を遂行して責任ある行動について考えさせ,人間的成長を図る。	A		自国文化に対する理解を深め,知識,教養を身につけさせる
	4年次	基本的学習習慣の確立	期末考査、模試の事前指導・事後指導を徹底し，家庭学習を定着させる	A	A	進路や自己実現と学習を関連付け立体的に意識させ,主体的に学ぶ姿勢を持たせる
			手帳を活用し，規則正しい生活を徹底させる	B		手帳を活用し自己分析をさせるとともに見通しを立てて生活する習慣を定着させる
		将来像の確立と進路選択	自己を知り，文理選択を見据えた進路指導を充実させる	A		資料や進路サポートを活用,さらに教科担当と積極的に面談をして指導する
			講演会への参加や資料の熟読を通じ，進路意識の向上と具体化を図る	A		進路希望実現の為に必要な情報の収集の仕方を指導し,さらなる進路意識の向上を図る
		人間関係の確立	学校行事に留まらず，地域と関わる機会を設け，コミュニケーション能力と協調性の向上を図る	A		少人数で人間関係が狭いため,外部との関わりを多くもたせ,視野を広げる
			心身の健康に気を配り，良好な対人関係を構築させる	A		定期的な声掛け・面談と観察を行う
		社会性の育成	課題解決の為に，互いの意見や価値観を尊重させ，自ら考えて行動させる	B		PBLを中心に事前・事後学習をより計画的に実施する
			生徒会活動や部活動等で活躍する機会を増やし，リーダーシップの育成を図る	A		生徒の活動意欲を高め，ボランティア・部活動への積極的な参加を促す

	5年次	基本的生活習慣の涵養	自分自身を振り返り，自立心を育成する。	B	B	HR等を活用して、振り返りをさせる機会を意識的に増やす。
			スコラを活用し，規則正しい生活を徹底させる。	B		HRや掲示資料を通して活用の仕方を再度伝える。個々の状況に応じて面談等の指導を行う。
		周囲との協力的態度の育成	学校行事や特別活動を通して，リーダーシップや組織の運営について，実践的な態度を学ぶ。	A		組織の中心的役割を担う自覚を持ち自らリーダーシップや問題解決能力を高めようという意識を持たせられるよう、声かけや指導を継続する。
		学習習慣の確立と進路への展望	1日の学習習慣や，長期的な展望に立った学習方法を確立していく。	B		学習を計画的に進めることの必要性を再確認し、スコラを活用した日々の学習の可視化・習慣化を促す。
			面談や進路講演会を通して，次年度の進路への意識を高める。	A		面談や講演を通した学びを内面化態度や行動に反映させ個々の成長実感につなげさせる。
		社会的存在としての自己の確立	卒業後の進路を踏まえ，社会の一員としての自覚を意識させる。	B		進路目標およびその動機の内発化を通して将来自分が取り組むべき社会課題を積極的に明確化し自己実現の方向性を自覚させる。
	6年次	基本的生活・学習習慣の確立	手帳を活用し，計画的・継続的な学習を意識させる	A	A	進路意識を高め，自学に取り組むよう促す
			生活習慣の見直し・改善を指導する	B		生活のリズムを確認し，生徒の心身の状態を把握することに努める
		目的意識を持った進路の実現	将来の職業や生徒の希望に沿った進路指導を行う 適宜面談を実施し，フォローアップに努める	A		進学意欲を引き出す工夫と受験指導力の向上
			生徒の志望する大学や学部・学科に応じた適切な受験指導を行う 年次のみならず，各教科との連携を図り生徒の学習支援に努める	A		面談を通じて生徒ひとりひとりに合った受験方式の選択や学習指導を行う
		社会を意識した自己の確立	集団における自らの役割を理解し，リーダーシップと協調性を育成する	B		集団の一員として，自覚と責任感を高める指導の継続
			他者の意見を尊重し，自らの意見を堂々と述べられる態度を養う	A		HRや学教行事を通して，ひとりひとりが考える機会を増やす
			最上級生としての自覚を持たせ，自律した態度を身につけさせる	A		下級生の模範となるよう，上級生としての自覚を促す
			自分で考え，率先して行動できる積極性・自発性を伸長する	B		発言や行動に対して，それに伴う責任感を意識させる

校務分掌	教務	6年間を見通した教育の確立	シラバス・学習指導計画の見直しを継続する	A	A	該当年次の生徒の特性やニーズを考慮して柔軟に対応する
			新学習指導要領に基づき、各年次の学習内容の有機的連携を図る	A		事務連絡に留まらない教科会を意識する
		学力向上の追求	4学期制を活かした短周期での評定を学習意欲につなげる	B		学習意欲向上や学習法改善につながる教科所見を目指す
			習熟度別授業、放課後・夏季ゼミ等を活用して生徒のニーズに応える	A		生徒の特性やニーズに応じた講座を開講する
		授業力の向上	各学期末に全生徒対象の授業アンケートを実施する	A		アンケートの結果を授業・教材作成等に活かす
			教科別に研究授業を実施する	A		研究授業後の検証を通して授業内容・授業力の向上を図る
		探究学習の充実	PBL手法を活用した探究学習を実践する	A		調べ学習を超えるレベルの探究を目指す
			SDGs、ユネスコスクールの理念を活かした探究学習を実践する	A		生徒による発表の機会を増やす
		ICT教育の推進	授業内外におけるChromebookの活用機会を増やす	B		ロイロノートの活用を進める
			生成AIの望ましい活用法を探る	B		生徒・教員を対象に、適宜学習会等を行う
	進路	6年間を見通したキャリア教育プランの確立	労働体験を通して働くことの尊さと意義を考えさせ，望ましい勤労観を身に付けさせる。	A	A	インターンシップの実施時期についての検討を行う。
			生徒の興味・関心や資質・適性を検討し，生徒の将来を見据えた進路を提案する。	A		マナビジョン『適学・適職診断』やマイナビ『適性診断』の実施。
		学習活動の支援	定期的に模擬試験を実施し，年次や教科担当にデータを提供して，学習指導を行う。	A		模試の申し込み・発送準備を確実に行う。
			ゼミや個別指導で生徒の学力向上に努め，学習ガイダンス等を通して学習意欲の向上を図る。	A		課外ゼミ・夏季ゼミ・冬季ゼミへの積極的な参加を呼びかける。
		進路情報の提供	各年次の生徒や保護者に向けて，進路に関する情報提供を積極的に行う。	B		「ForgeAhead」や「進路だより」の定期的な発行。
			各年次に応じた講演会や説明会を開催し，進学に対する意識を啓発していく。	A		講演内容に関する事前の打合せを綿密に行う。
		進学希望者への支援	各大学関係者との結びつきを強め，指定校推薦枠の維持・確保に努める。	A		生徒が志望する大学の指定校枠提供を依頼する。
			総合型選抜・学校推薦型選抜等，多様化する大学入試に対応した受験指導を行う。	A		志望理由書の添削や面接練習を個別に行っていく。

生徒	基本的な生活習慣の確立とマナーや振る舞いの向上	校内のみならず，対外活動においてもさわやかな挨拶ができるようにしていく	A	A	挨拶の励行を継続させていく
		集会や式典における自己指導力を継続していく	A		教員による号令統率などを控え，生徒の自主性を涵養する
		スマホ・SNSの校内での適切な使用方法の確立を促す	B		あらためて使用の基本に帰り注意を喚起する
		スマホ・SNSについて，外部講師からの助言を通して新たな気づきを持たせる	A		引き続き外部講師による講演会・研修会を実施する
		スマホ・SNSの適切な取扱いへの理解と行動を高める	B		SNS等によるトラブルの注意喚起をおこなう
		学校行事などを通して公共交通機関での安全かつ適切な振る舞いを意識させる	A		危機管理意識を高める広報につとめる
	交通安全への理解と適切な行動力の向上	自転車通行路の適切な利用と運転マナーの向上	A		自転車のルール順守はもちろんのこと，マナーの向上に努める
		交通安全教室を通して，自己を客観視できる視野の育成	A		引き続き外部講師による講演会・研修会を実施する
	生徒指導における教員の資質向上	教員の問題解決力と生徒指導への理解を深める	A		引き続き，年次教員によるトラブルの防止や解決力の向上を図る
特活	円滑な学校行事の運営	智学館カップの実施 年次減少に対応した学校行事の運営	A	A	生徒数減少に対応して工夫を施す
	委員会活動における生徒の自主的活動の支援	生徒の主体的取り組みを取り入れた活動の支援 各委員会における対外活動の活発化	B		委員会の持続可能な活動を模索する
	部活動の活性化	部活動やクラブ活動の活動率の引き上げ	B		練習計画書による部活動の把握
	ボランティア活動の支援	地域のボランティア活動への積極参加の支援	A		積極的にボランティア活動の周知を行う
	生徒会活動の自主的活動の支援	生徒会活動の自主的活動への支援 インターネットツールを活用した生徒会活動の運営	A		生徒会Instagramの積極的な活用を奨励する
		生徒総会を中心とした学校組織の仕組み作り	A		生徒総会の活性化を促す
	HRの活動計画の深化	1年間を通したHR運営方法の確立	A		人間育成・リーダー教育のためのHR計画
		教員間の情報共有と主任、担任、副担任の連携	B		計画・反省を中心とした前年度の見直し

保健	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保	学校保健計画に基づき，諸検査・安全点検を実施する	A	A	諸検査，点検の実施を継続する
		避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては，地域との連携を図る	A		教務との連携を密にし，年に2回の実施を継続する
	生徒の健康課題を把握と健康教育の充実	学校保健計画に基づき，健康診断を実施し，担任や保護者と連携して対応する	A		保護者との連携を密にし，健康教育の充実を図る
		保健だよりの発行や保健委員生徒の校内放送，講演会を通じて，生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る	A		毎月の保健だより発行を継続し，講演会の充実を図る
		保健室の円滑な運営・管理に努める	A		円滑な保健室経営を継続する
		感染症の流行の防止に努める。手洗い・うがいの徹底や環境を整え，感染症の蔓延を防ぐ	A		保健委員会を十分に活用し，生徒の予防意識を高める
	心の問題の早期発見・対応	カウンセリングにおいて，スクールカウンセラーと担任間の連絡調整を支援する	A		カウンセラーと担任間の円滑な連絡調整を継続する
		要配慮生徒について，担任，スクールカウンセラーと連携し，教職員の共通理解を図る	A		情報共有を密にし連携を図る
	心身共に健康な生活送るための「食育」に関する意識啓発	食に関して関心を持てる環境づくりに努め，給食業者の協力を得て，「食」について考える機会を設ける	B		睡眠・栄養講座の実施と定着
		食育に関する情報の発信と意識の啓発を行う	A		保健だよりだけでなく保健委員会でも啓発活動を行う

教科	国語	基礎的な学力の定着	日々の予習・復習等の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	授業内で次時の予告を行い，生徒に予習を促す。
			習熟度別授業を通して，一人ひとりの学力に応じた適切な学習指導を行う。	A		定期試験ごとに生徒の習熟度を確認し，応用/標準クラスに振り分ける。
		語彙力・表現力の向上	作文指導や小論文指導を通して，諸問題に対する独自の見方や考え方を養う。	B		新聞記事を活用し，時事問題に対する関心を持たせる。
			各年次に適した課題設定・添削指導を行うことで，文章表現力を向上させる。	B		ライセンスアカデミー『書いて考える進路』を利用して文章指導を行う。
		読解力・論理力・思考力の育成	文書を正確に読み取り，内容や論旨を的確に把握する力を養成する。	B		授業での発問を通して，生徒の理解度を確認する。
			ディスカッションやディベート，プレゼンテーションを通して，批判的思考力や論理的な思考力を養成する。	A		授業や激論会での話し合いを通して，根拠に基づいた主張を行わせる。
		鋭敏な言語感覚と芸術的感性の錬磨	文学的文章から，登場人物の境遇や心情，人間関係や時代背景などを読み取り，物語の世界をイメージする力を養う。	A		物語の時代背景を意識させ，作中人物の生き方について考えさせる。
			詩・短歌・俳句に親しみ，鑑賞および創作を通して，言語感覚を磨く。	B		韻文の表現技法やその効果について理解させる。
	数学	基礎学力の定着	定期的な課題によって，家庭での学習習慣を身に付けさせる。	A	B	復習だけでなく予習もできるような課題を設定する。
			定期的な小テスト・単元テストによって学力の定着を確認する。	B		より計画的に単元テストを行えるように授業を進める。
		個に応じた学習指導の充実	習熟度別授業や放課後ゼミにより個人差に配慮した指導を行う。	A		より生徒の需要に合ったゼミを展開する。
			生徒同士で議論・発表する機会を増やし，考える力や表現する力を養う。	B		より活発に議論ができるような雰囲気作りに努める。
		教員の教科指導の向上	教科内で，互いの授業方法について相談や意見交換を密に行う。	A		新課程の内容や共通テストの問題傾向・対策などについて教科会で意見交換を行う。
			様々な研修に積極的に参加し，その情報や成果を教科内で共有する。	B		研修会や公開授業，教科外の研修などにも積極的に参加する。
	社会	6年間を見据えた系統的な指導の確立	新課程における科目の研究を進め、学力向上を目的とした学習指導を行う。	A	A	後期課程における歴史総合と地理総合、各探究の繋がりを考える。
			多様な進路希望に対応できる科目選択のあり方について研究する。	A		各総合科目、探究科目についての研究を進める。
		実社会とのつながりを意識できる学習法の開発・実践	実社会の諸問題を体験的に学び考えるため、活動的な実践を積み重ねる。	B		探究学習との関連を持たせ、課題発見・解決型のフィールドワークを実施する。
			資料読解の機会を多く設け、社会的諸問題を発見させる。	A		意見や知識を要約し、共有・発表するスキル向上をめざす。
		主体的・対話的な学びを実現する指導法の工夫・改善	全年次が持っているChromebookを用いて、アクティブラーニング型の学びのスタイルや学習課題、発問技法について研究を深める。	A		ICTを用いた授業技法について教科内で研修を行う。
			先人との対話という点を重視し、学習課題に応じた適切な史資料等を選定する。	A		生徒に考えさせたいことや習得させたい力を踏まえ、適切な史資料を選定する。

理科	科学的・論理的思考の育成	「観察」「仮説」「実験」「考察」の一連のプロセスを通じて、実験や観察を行う。	B	B	特に「仮説設定」と「考察」の段階で、生徒の思考を深めるための発問や個別フィードバックの機会を増やし、サポート体制を強化する。
		実験や観察で得られた結果を基に、レポートや研究論文を作成することで科学的・論理的思考を育む。	A		レポート作成指導において、考察の深化、論理構成の精緻化、、相互評価等を通じて、生徒の科学的思考力と表現力のさらなる向上を図る。
	探究力の育成□	実験後の自由発見時間を確保し、生徒が新しい仮説を立てられるような探究活動を促進する授業を展開する。	B		生徒の自由な発想や知的好奇心に基づく探究活動を一層活性化させるため、「実験後の自由発見時間」の内容の充実を図る。
		実験や課題をこなす際に、仮設の設定、情報の収集、整理と分析、発表、振り返りのサイクルを含める。	A		多様な実験器具・資料を整備するとともに、必要に応じて地域や外部機関（大学、研究施設など）との連携も視野に入れ、発展的な探究活動の機会を提供する。
	理科の言語化□	授業中の実験を通して、レポート作成に取り組み、論理的な文章の作成方法や研究論文の書き方を学ぶ。	A		論理的な文章構成力に加え、データの適切な引用方法、参考文献リストの作成など、よりアカデミックな視点に基づいたレポート・論文作成指導を強化する。
		発表においてICT機器を活用し、自らの研究成果を効果的にプレゼンテーションする能力を養う。	B		ICTを活用したプレゼンテーションにおいて、機器の操作スキルだけでなく、科学的な根拠に基づいた説得力のある構成や、効果的な質疑応答など、より高度なコミュニケーション能力の育成を目指す。
英語	基礎的な英語力とコミュニケーション力の育成	4技能のバランスがとれた言語活動を実施する。	A	A	「読む」「話す」の活動を多く取り入れる
		知識を実践で運用できるよう，場面設定や教材はできるだけ実際的なものにする。	B		インターネット等を利用して，実際に使われる英語を素材として使うようにする
	基本的な学習習慣の確立	定期的に小テストを実施したり，課題を与えたりして，自学自習，家庭学習の習慣を身につけさせる。	A		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう
		外部資格・検定試験の受験を促し，自身の英語力向上のために目標を持って学習に取り組ませる。	A		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう
	英語を用いて積極的に行動する態度の育成	幅広い話題について，情報や考えなどを整理して発表したり，話し合ったりする。	A		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする
		調べ学習をさせたり，補助教材を利用したりして，異文化理解を深める。	B		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする
	英語を運用する機会の充実	English Dayやその他授業内外の活動を通して英語でコミュニケーションを図る機会を設ける。	A		オンライン英会話学習を通して実践的なコミュニケーションの練習をする
		国際交流の機会をできるだけ多く設ける。	A		留学生との交流やオンライン英会話を通して実践的なコミュニケーションの機会を設ける
	研修機会の充実	授業担当者がそれぞれの授業について，情報を共有し，指導の工夫や改善の参考にする。	A		他の教員の授業を積極的に見学する
		外部の研修会等に積極的に参加する。	B		教員一人ひとりが努力する

	保体	保健学習の充実と知識を活用する学習活動の取り入れ	心身の発達と心の健康について理解させる。	A	A	学んだ内容に強い興味を持たせるために，発表や話し合いの場を設ける。 見る，聞く，話す，感じる，考えることでより深い理解につなげる。
			健康と環境，傷害の防止について理解させる。	A		
			健康な生活と病気の予防について理解させる。	A		
			ブレインストーミング，実習，ICTを活用した学習などを取り入れる。	B		
		基礎体力を高め，心身の調和的発達を図る	授業及び体力テスト等への積極的参加の姿勢を育成する。	A		各種目に応じた補強運動を取り入れ，基礎体力を高めていけるよう，時期や活動などの工夫を増やす。
			体つくり運動や持久走の授業で効果的な体力向上の実践を行う。	B		
		運動を豊かに実践することができるようにすることとコミュニケーション能力の育成	運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		基礎的技能習得の機会を設けるために，個人で練習課題を考えるワークシートなどの導入を増やす。ICTを活用した授業・視覚的な授業の充実を図る。
			基礎的な運動技能を習得させる。	B		
			ルールを理解させる。	A		
			練習や作戦，課題解決の方法の確認を話し合う機会を設ける。	B		
		決まりを守り，互いに協力し合う態度を養う	規律ある行動をとり，マナーやルールを遵守する。	A		選手を取り巻く環境（対戦相手や観客など）や，精神面（心）を読み解く力をつける為に，体育理論や道徳授業の中で考えさせ，またその時期を検討する。
			フェアプレー精神を尊守する。	A		

※評価基準　A：十分達成できている　B：達成できている　C：概ね達成できている　D：不十分である　E：できていない